

本県の産業振興について



2024年7月26日(金)
商工労働部長

1. 現状(産業構成・雇用)
2. 課題と対応の方向性
3. 視点①:企業の生産性向上、新産業創出
4. 視点②:成長産業の誘致
5. 視点③:県内外からの人材獲得競争力強化
6. まとめ

注)本資料は、人口未来構想本部員としてまとめたものであり、必ずしも商工労働部の所掌に限らない取組・内容も含まれますが、部局の壁を取り払った観点で重要と思われる視点や献策として、ご理解賜りますよう、宜しくお願い申し上げます

1. 現状①: 富山県の産業構成

- 富山県の産業のうち、**製造業の従業者数が占める割合は約26%（約13万人）**
- 本日は商工労働部の担当する商工業に重心を置いて論点提起させて頂くが、**農林漁業、建設業、観光業、医療・福祉など、多様な産業構成を意識する必要**

産業大分類	富山県					全国	
	総数	人数		男女比 (%)		男女比 (%)	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
全産業（公務を除く）	508,283	281,955	222,201	55.5	43.7	54.9	44.2
農林漁業（個人経営を除く）	11,923	9,816	2,107	82.3	17.7	70.4	29.4
鉱業、採石業、砂利採取業	234	180	54	76.9	23.1	84.5	15.4
建設業	38,526	30,736	7,634	79.8	19.8	80.7	19.0
製造業	131,286	88,870	42,274	67.7	32.2	70.0	30.0
電気・ガス・熱供給・水道業	3,923	3,296	627	84.0	16.0	85.9	14.0
情報通信業	7,665	5,056	2,355	66.0	30.7	71.1	27.8
運輸業、郵便業	22,964	18,596	4,280	81.0	18.6	79.9	19.9
卸売業、小売業	91,281	45,924	44,855	50.3	49.1	50.3	48.5
金融業、保険業	12,135	4,943	6,776	40.7	55.8	44.1	54.8
不動産業、物品賃貸業	8,662	4,752	3,909	54.9	45.1	58.2	41.4
学術研究、専門・技術サービス業	11,055	6,700	4,332	60.6	39.2	65.3	33.9
宿泊業、飲食サービス業	33,986	12,858	20,669	37.8	60.8	40.9	57.0
生活関連サービス業、娯楽業	17,872	7,090	10,773	39.7	60.3	42.5	57.1
教育、学習支援業	14,237	5,326	8,855	37.4	62.2	46.3	53.5
医療、福祉	61,144	14,818	44,401	24.2	72.6	27.7	70.7
複合サービス事業	4,236	2,153	2,083	50.8	49.2	59.1	40.8
サービス業（他に分類されないもの）	37,154	20,841	16,217	56.1	43.6	58.3	41.3

（注1）総数には男女別が不詳の従業者を含むため、男性と女性の合計は総数と一致しない場合がある。

（注2）男女別が不詳の従業者がいるため、男性と女性の構成比の合計は、100%にならない場合がある。

1. 現状②: 富山県の産業構成

- 建設・建築用金属製品製造業、医薬品製造業、金属加工機械製造業、耕種農業等が全国傾向と異なり、**際立って濃密な特徴** ⇒ **富山の比較優位性の根っこ**
- 上位の福祉・介護、病院、医薬品等の**ヘルスケア領域**は、高齢化に伴ってサービス需要が増加する産業群。**今後益々の高齢化時代に対応した成長戦略の視点は重要**

順位	産業小分類項目名	富山県		(参考) 全国		
		従業者数	人口千人当たり 従業者数	従業者数	人口千人当たり 従業者数	全国ランキング における順位
1	老人福祉・介護事業	25,062	24.44	2,540,897	20.25	1
2	病院	22,619	22.06	2,403,536	19.15	2
3	建設用・建築用金属製品製造業(製缶板金業を含む)	15,995	15.60	272,030	2.17	57
4	一般貨物自動車運送業	14,385	14.03	1,678,415	13.37	3
5	医薬品製造業	11,164	10.89	118,010	0.94	124
6	その他の飲食料品小売業	9,076	8.85	1,412,010	11.25	4
7	耕種農業	8,950	8.73	201,851	1.61	76
8	専門料理店	8,811	8.59	1,309,971	10.44	5
9	土木工事業(舗装工事業を除く)	8,493	8.28	746,640	5.95	14
10	金属加工機械製造業	7,846	7.65	179,160	1.43	88
11	各種食料品小売業	7,771	7.58	1,126,176	8.97	10
12	建物サービス業	7,701	7.51	983,703	7.84	12
13	自動車小売業	6,709	6.54	568,386	4.53	16
14	労働者派遣業	6,680	6.51	1,159,443	9.24	7
15	一般診療所	6,367	6.21	1,047,032	8.34	11
16	児童福祉事業	6,300	6.14	1,133,473	9.03	9
17	医薬品・化粧品小売業	5,832	5.69	664,522	5.29	15
18	他に分類されない事業サービス業	5,493	5.36	1,167,591	9.30	6
19	その他の食料品製造業	5,140	5.01	493,557	3.93	23
20	自動車・同附属品製造業	4,965	4.84	878,983	7.00	13

(注1)産業小分類の順位
例: 医薬品製造業は全国では
124位だが、富山では5位

(注2)
富山は全国と比較して
人口千人当たり従業者数で
7.2倍の密度 (15.60÷2.17)

11.6倍の密度 (10.89÷0.94)

5.4倍の密度 (8.73÷1.61)

5.3倍の密度 (7.65÷1.43)

1. 現状③: 富山県企業の働きやすさ

- 民間の調査データによれば、**富山県企業の働きやすさは全国の中でも比較的高い**

【働きやすい都道府県ランキング】

順位	都道府県	総合評価
1	沖縄県	2.97
2	東京都	2.96
3	山口県	2.88
4	徳島県	2.87
4	愛知県	2.87
6	大阪府	2.86
6	高知県	2.86
8	京都府	2.85
9	神奈川県	2.83
10	千葉県	2.82
11	富山県	2.81
12	愛媛県	2.80
12	秋田県	2.80
14	香川県	2.79
15	長野県	2.78
16	静岡県	2.77

20代が働きやすい都道府県

順位	都道府県	総合評価
1	愛知県	3.52
2	愛媛県	3.20
2	長野県	3.20
4	徳島県	3.15
4	沖縄県	3.15
6	秋田県	3.13
6	長崎県	3.13
8	東京都	3.11
8	鹿児島県	3.11
10	福井県	3.08
10	富山県	3.08
12	宮崎県	3.07
13	大阪府	3.06
14	北海道	3.01
15	大分県	2.99
15	兵庫県	2.99

女性社員が働きやすい都道府県

順位	都道府県	総合評価
1	愛知県	3.35
2	佐賀県	3.19
3	長野県	3.14
4	岡山県	3.13
5	東京都	3.12
6	岐阜県	3.08
6	宮崎県	3.08
8	千葉県	3.07
8	茨城県	3.07
10	神奈川県	3.06
11	富山県	3.05
12	兵庫県	3.04
12	沖縄県	3.04
14	秋田県	3.03
14	福岡県	3.03
16	愛媛県	3.02

仕事のストレス度が低い都道府県

順位	都道府県	仕事の ストレス度評価
1	沖縄県	2.83
2	高知県	2.79
3	徳島県	2.68
4	東京都	2.66
5	鹿児島県	2.65
6	愛媛県	2.64
7	富山県	2.63
8	千葉県	2.61
9	愛知県	2.60
9	山口県	2.60
11	秋田県	2.58
12	大阪府	2.57
13	長野県	2.54
13	京都府	2.54
15	熊本県	2.53
15	岐阜県	2.53

(出所) 働きやすい都道府県ランキング (2019年3月)

企業の口コミ・給与明細サイト「キャリアコネ」において「労働時間」「やりがい」「ストレス」「休日」「給与」「ホワイト度」の6項目の評価の平均点(総合評価・5点満点)を都道府県別に抽出

2. 課題と対応の方向性

- 人口減少が産業に与える影響を踏まえれば、本県の産業振興の課題は以下のとおり

課題1: 人口減少により地元消費市場が縮小し、**企業の売上や利益が圧迫**される可能性

⇒ 企業の生産性向上や県内外の新たな需要開拓を支援する必要

課題2: **新しいアイデアや技術を生み出す力が弱まり**、地域経済の活力が失われる懸念

⇒ グローバル競争や技術革新に対応するための構造転換を促す必要

課題3: 人口減少と高齢化により、特に**若年層の従業者が減少**。

熟練技術の継承も難しくなり、企業の生産性が低下するリスクがある

⇒ 県内外の優秀な人材から「**選ばれる富山**」となる環境を整備する必要

- 対応の方向性として、3つの視点で整理

視点①: 企業の生産性向上、新産業創出

視点②: 成長産業の誘致

視点③: 県内外からの人材獲得競争力強化

3. 視点①: 企業の生産性向上、新産業創出(これまでの取り組み)

- これまで取り組んできた**生産性向上・賃上げ・価格転嫁への支援**により、**着実に前進**

生産性向上・賃上げに向けた支援

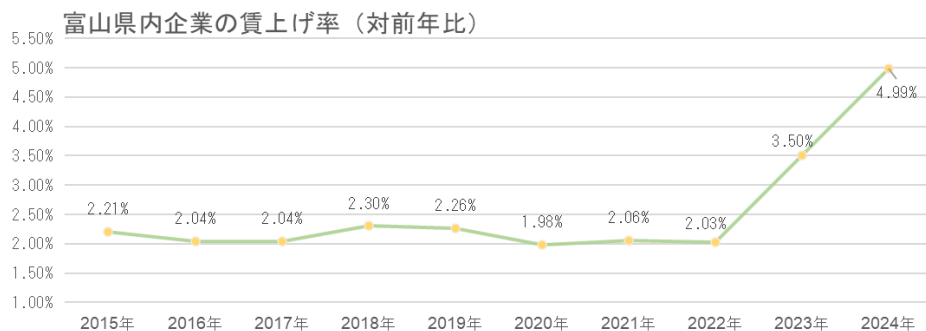
- 中小企業トランスフォーメーション補助金: **DX・GX支援**
- 富山県賃上げサポート補助金: 国の「業務改善助成金」(**賃金底上げと設備投資の助成**)への上乗せ補助
- とやま人材リスクリング補助金: **人への投資の強化**に向け、県内中小企業のリスクリングの取り組みを支援

適切な価格転嫁に向けた支援

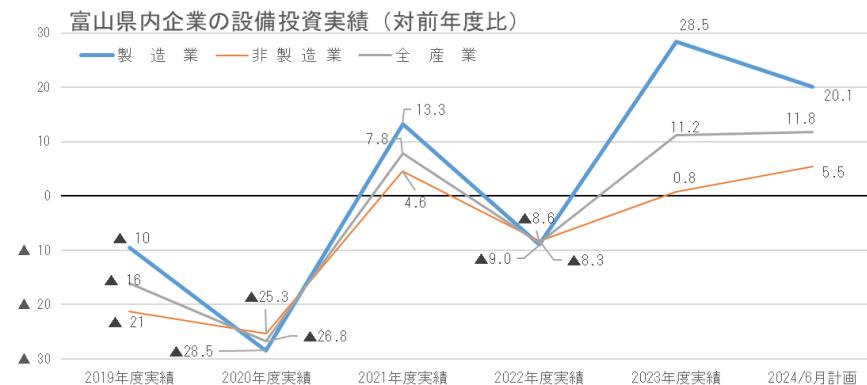
- 価格転嫁推進事業:
労務費を含む価格転嫁の機運を醸成するため、制度や取組事例の紹介等を行うシンポジウムの開催や実態把握に向けた調査を実施
- パートナーシップ構築宣言の登録企業数
2023年2月 211社 ⇒ 2024年6月 940社 (**約4.5倍**に)



県内企業の賃上げは大きく伸長



県内企業の設備投資も着実に増加



3. 視点①: 企業の生産性向上、新産業創出(これまでの取り組み)

- アルミやDX分野での成果や、**大学発ベンチャーで全国トップの伸び率**

成長戦略の柱:「新産業戦略」の推進

カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーといった、国際標準化時代に対応した経済圏の確立、県内企業のDX・高付加価値化を推進。これに沿って、**「県ものづくり産業未来戦略」を2024年3月に改定**

- **「とやまアルミ・コンソーシアム」の推進**: 県立大学と連携し、アルミ製品のライフサイクル全体でのCO2排出量を把握するアプリケーションを開発
- **富大高岡キャンパス軽金属材料共同研究棟設立を支援**、2023年10月完成 2024年2月、アルミ再利用研究事業がJST事業の本格型に採択
- 県立大学 **DX教育研究センター**、情報工学部の新設

成長戦略の柱:「スタートアップ支援戦略」の推進

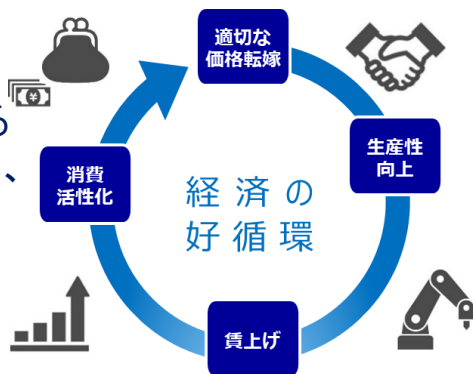
- 県成長戦略のKPIとして、「2026年度までに**IPO1社**又は同等の企業価値を発現する企業複数社の創出、及び**大学発ベンチャー企業10社以上設立**」との高い目標を掲げ、R4年よりT-Startup創出事業やSCOP TOYAMAを拠点とした創業支援を推進
- T-Startup選定企業1社が**上場準備中**。経産省調査で2018年度と2023年度と比較して大学発ベンチャー企業が9社増加、**全国トップの伸び率との報道**

3. 視点①: 企業の生産性向上、新産業創出(今後のポイント)

- 「経済の好循環」の実現に注力しつつ、**次なる成長市場を掴む布石を打つタイミング**

経済の好循環の実現

- 引き続き、賃上げの定着、構造的な価格転嫁、DX・GXや人への投資による生産性向上支援などを通じ、経済の好循環の実現を目指す



産官学によるサーキュラーエコノミー・GX

- 本年6月、富山県として国が設立した「**サーキュラーエコノミーに関する産官学パートナーシップ**」に加入。
アルミ産業はじめ、**国の法制度整備を先取った対応を促進**



- ものづくり産業サーキュラーエコノミー推進事業:
新たな商品開発プロジェクトの創出や、廃材展示会開催等に向け、コーディネーターによる企業訪問やカンファレンスの開催により、異業種連携の土壌を形成

スタートアップ振興の次のフェーズへ

- 経済界を更に巻き込んだオール富山のスタートアップ・エコシステム形成に向けた**サミット開催(9月2日)**
- T-Startupサポーターに広がりをもたせる新たな仕組み
- スタートアップ振興における有望分野のアクセント付け
- 県・各市町村スタートアップ支援施設の連携促進

地域課題をテコにしたDX産業育成

- 県では「Digi-PoC TOYAMA事業」を展開しており、これをさらに発展させ、**「仕組み化」したデジタルプラットフォーム**を構築することが重要。このプラットフォームにおいて、地域課題が継続的に抽出され、それに応じた県内外のデジタル企業が解決策を提案、マッチングする仕組み
- 生成AIの急速な進化や県DX条例制定を起爆剤に、地域課題の見える化、地元のデジタル企業育成、**人口減少下でも持続可能な社会に向けたDXを一挙に進める好機**

4. 視点②: 成長産業の誘致(これまでの取り組み)

- 企業立地助成制度等の支援を通じて、**半導体・バイオ等の成長産業の誘致**に進展

企業立地助成制度等による支援

- 工場の新・増設に対する助成: **R4に要件を大幅に緩和**
- 研究所の新・増設、研究者等の雇用に対する助成:
高機能素材、デジタルものづくり、ライフサイエンス等の
自然科学研究所及び研究者・デザイン業のデザイナー
- IT・オフィス系企業立地助成金**:
R4にソフトウェア業、情報処理・提供サービス業向けに新設
- 本社機能の県外からの移転に対する助成:
R3に「**とやまホンシャ引越し応援特別枠**」として新設

企業立地セミナーを通じたプロモーション

- R3年度からR5年度までの間に
162件の企業立地
- R4年度に「IT・オフィス系企業
立地助成金を創設し、R5年度
までに**18件のIT・オフィス系企業が
富山に進出**」



成長産業分野企業における立地事例

- SCREENホールディングス(高岡市)
・半導体洗浄装置の製造
- KOKUSAI ELECTRIC(砺波市)
・半導体製造装置の製造
- 住友電気工業(高岡市)
・EV向け半導体材料(炭素ケイ素(SiC)製ウエハー)
- 富士フィルム富山化学(富山市)
・バイオ医薬品製造受託(CDMO) **投資額: 約600億円**

県外IT・オフィス系企業の富山進出事例

- 2022年11月 エスプールグローバル(東京): 魚津市に進出
- 2023年4月 山口のIT企業: 富山市に進出
- 2023年7月 東京のIT企業: 射水市に進出
- 2023年7月 東京のIT企業: 富山市に進出
- 2023年11月 東京のIT企業: 富山市に進出
- 2023年11月 バーニングコア(株)(東京): 滑川市に進出
- 2023年12月 東京のIT企業: 高岡市に進出
- 2023年12月 東京の人材紹介企業: 富山市に進出
- 2024年2月 OCC情報センター(大阪): 立山町に進出

4. 視点②: 成長産業の誘致(今後のポイント)

- 比較優位性の根っこがある産業にリソースを集中し、**産業クラスター化を促進**

女性活躍企業の誘致プロモーション

○女性活躍企業誘致促進事業: 若い女性に就職先として選ばれるよう、女性活躍の推進に積極的な企業に対して誘致プロモーションを展開

(参考) 大学生の意識調査

就職を希望する業種を富大、県立大に調査(R4年12月)

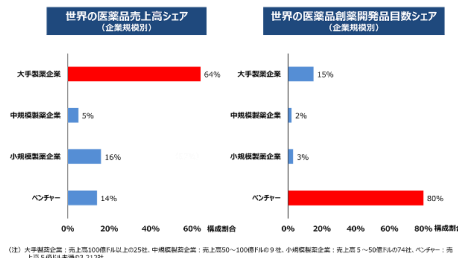
- ・製造業 30.3%(1位): 男性 34.7%(1位)、**女性24.0%(2位)**
- ・情報通信業 23.7%(2位): 男性 31.5%(2位)、女性12.7%(5位)

女性上位は公務・その他(1位)、生活サービス・娯楽(3位)、医療・福祉(4位)

ヘルスケアスタートアップの県内誘致

○開発品目のシェアで8割がスタートアップとなるなど、**新しい医薬品を開発する主体は、スタートアップへと移行**

○国が力を入れる創薬分野の他にも、「健康と美食」関連、ヘルスケア関連分野の県外スタートアップを富山へと誘致



ヘルスケア×農漁/食/美容/観光の産業融合

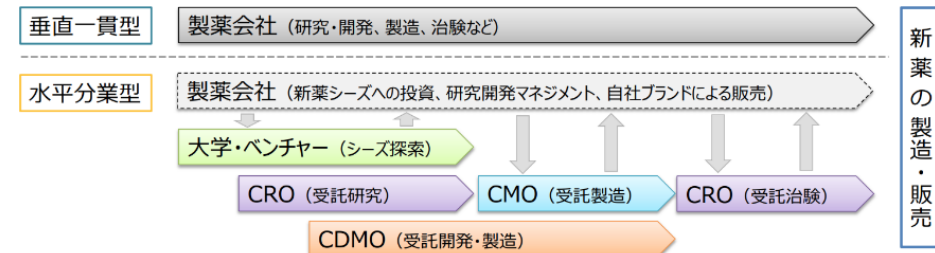
○富山が全国に誇る「**健康と美食**」の強みをフルに活かした産業融合によって県全体の経済活性化を図りながら、**都会と富山との二拠点生活需要を捉えるフック化すべき**

- ・健康とリラクゼーションを求める「**デジタルノマド**」も誘引(先端的なIT技術者や企業立地などに繋がり得る)
- ・療養/健康診断/予防医療を目的としたツーリズム
- ・健康志向の食・薬膳文化と美容サービスの提供
- ・地元農漁業者との協力による地域経済の活性化
- ・健康食品/サプリメントの開発・販売との一体的展開

バイオ医薬品CDMO関連産業の集積

医薬品に水平分業の流れ、過去の半導体製造業と同様の業界構造の転換点。**富山への産業集積を図る絶好の機会**

<水平分業のイメージ>

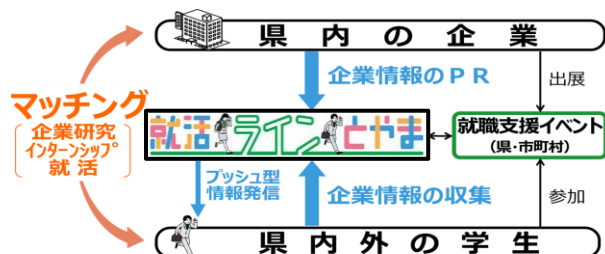


5. 視点③: 県内外からの人材獲得競争力強化(国内向け:これまでの取り組み)

- プラットフォーム刷新やプッシュ型情報発信等、**各人の心に響く**よう、きめ細かく支援

「就活ラインとやま」の全面リニューアル

本年3月に統合、県内企業の魅力を動画でアピールする他、LINEを活用した学生本人への**プッシュ型情報発信**など、若者に寄り添い、かつ心に響く内容へと改善



「帰ってこられ！就職応援助成事業」

平成29年度から実施してきた交通費助成制度について、利用実績が低調であったため、R5年度に助成対象範囲を拡大し、制度の見直しを行った

その結果、昨年度の利用実績は189件、**対前年度比約32倍と急増**。さらに、利用者のうち**7割超の県外学生のUターン就職**に結びついた

「富山くらし・しごと支援センター」の支援

相談窓口「富山くらし・しごと支援センター」を東京の有楽町・飯田橋、大阪、名古屋に設置。キャリアコンサルタント資格を持つ相談員が、希望者の経験やスキル、働き方などに応じて、希望に沿った県内企業を紹介する等、丁寧にサポート

大阪オフィスについては、本年4月に県大阪事務所が入居する近畿富山会館内に移転し、相談体制を強化

中高生×女性管理職交流会の展開

県内中高生と県内企業の女性管理職等とが座談会による身近なロールモデルとの交流を通して進学・就学前に自身のライフプランや将来のキャリアについて考える機会を提供

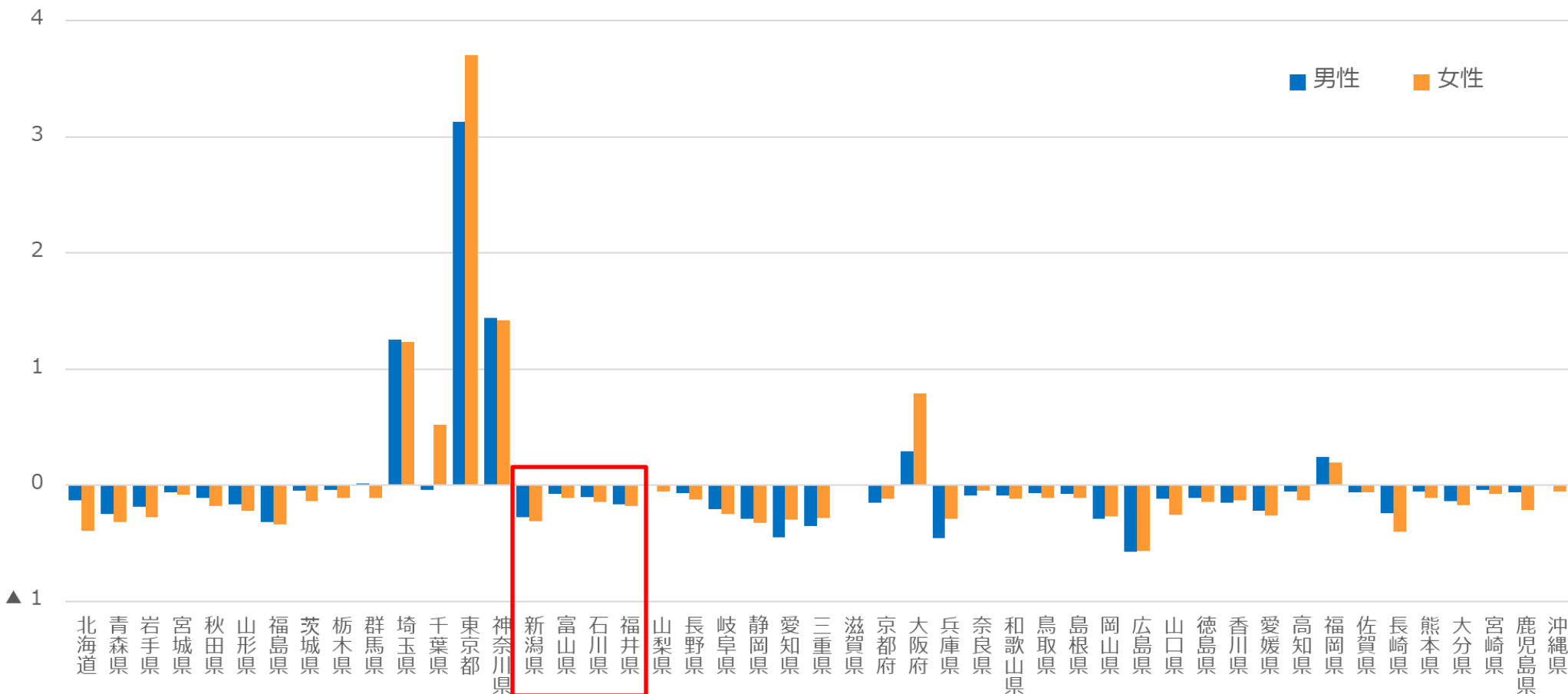
早い段階からの意識付けを図り、県内就職の視野を持てもらう



5. 視点③: 県内外からの人材獲得競争力強化(参考)

- こうした施策の効果も相まって、隣県などと比較して、**富山県の転出超過は限定的**

(万人)



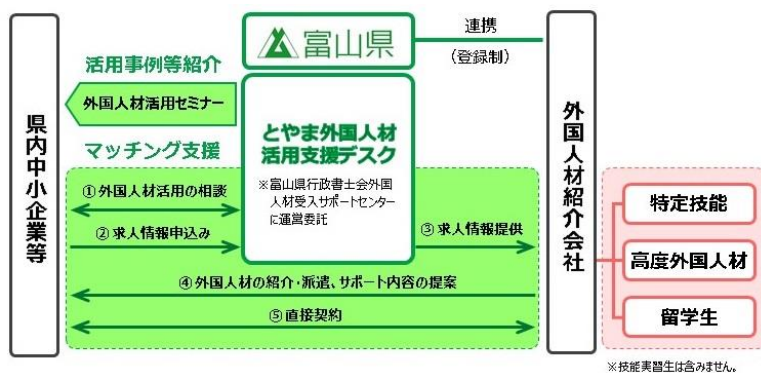
出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2023年）

5. 視点③: 県内外からの人材獲得競争力強化(海外向け:これまでの取り組み)

- 外国人材の活用は**県内企業の重要な選択肢**となっており、各種施策を推進

「とやま外国人材活用支援デスク」開設

○2023年9月に総合的な支援窓口を設置



アジア高度人材受入推進

○アジア諸国の理系人材と県内企業のマッチングを行い、その採用内定者の県内定着を促進するため、入国前に日本語教育や県内での生活レクチャーを行う「**富山就職プログラム**」を実施

富山県

外国人材の活用をお考えの事業主のみならず
外国人材の活用を希望する方へ

高度外国人材の 初めての受入れを サポートします！！

継続的に入国
希望する方
まで、人材
費を最大
でサポート

対象
業種は
1519指定

受入れ金額
50万円

企業へのリノベーションやグローバル企業など海外で活躍
している優秀な人材は、日本企業に多大の貢献をします。



採用できる人材

- 1 人材はアジア諸国の「理工系分野の大学卒業生」
- 2 安心の日本企業採用！日本国籍企業N3相当まで学習のうえ入国
- 3 現地大手企業と提携により、企業ニーズに合った人材の紹介が可能

※海外に滞在する方へ「日本企業に就職したい」「日本企業で働きたい」という希望がある方へ
 ・海外に滞在する方へ「日本企業に就職したい」「日本企業で働きたい」という希望がある方へ
 ・海外に滞在する方へ「日本企業に就職したい」「日本企業で働きたい」という希望がある方へ

申込み

下記メールアドレス又は
二宮元コトウキにお申込みください。

※お問い合わせ先

富山県

企業へのリノベーションやグローバル企業など海外で活躍している優秀な人材は、日本企業に多大の貢献をします。

県外国人材活躍・多文化共生推進プラン

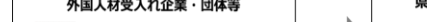
○2021年2月、県内における外国人技能実習生の増加や、2019年4月からの新しい在留資格の創設等を踏まえて「富山県外国人材活躍・多文化共生推進プラン」を策定

○これに沿って各種施策を推進

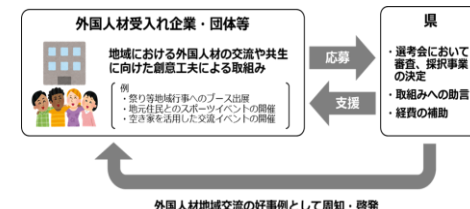
[illegible]

外国人材の定着支援

○外国人材地域交流促進事業：
外国人材受入の新制度を見据え、長期就労の外国人材から選ばれる富山県に向けて、**地域における外国人材の交流や共生の取り組み**を募集し、**好事例に対して補助**



```
graph LR; A[外国人材受入れ企業・団体等  
地域における外国人材の交流や共生  
に向けた創意工夫による取組み] -- 応募 --> B[県  
・選考会において  
審査・採択事業]
```



○外国人材日本語習得
サポート補助金

産業振興の大きな方向性（企業の生産性向上、新産業創出、成長産業の誘致）

- ・経済の好循環を促進しつつ、**比較優位性**を活かし、次の成長の波に乗れるよう支援
- ・特に新しい産業創出に関しては、最近、国の支援を受けてスタートした**富山のバイオ産業拠点、高岡の先進アルミ拠点を東西の中核に据え、富大・県大等との産学官連携・土台となる人材育成の下、関連する産業（ヘルスケア関連、サーキュラーエコノミー・GX）を巻き込んでいくことが重要**
- ・スタートアップは、**オール富山**のエコシステム形成、富山の持つ資源にマッチした**深堀り**を推進
- ・生成AIで異次元の進化をしているデジタルは、**地方創生の課題解決・DXに成長ポテンシャル大**

県内外からの人材獲得競争力強化

- ・外国人材活躍・共生社会実現について、**施策の総合強化**の検討タイミング
- ・根本的には、外国人材だけでなく、女性、高齢者、障害者、就職氷河期世代の方々など、**県民一人ひとりが働きやすい職場、暮らしやすい環境整備を進められるかどうか**

産業振興は県人口未来を切り拓く最前線であり、比較優位性を活かせる好位置にいる。
この最前線への人員の優先投入が、成長のカギを握る重要な時期となっている